外国語部会

コミュニケーション能力をつけるための指導の工夫

～「書くこと」を通して意欲的に英語学習に取り組む生徒の育成を目指して～

Ⅰ　主題設定の理由

東山梨地区外国語部会では，研究会で学んだことを授業で生かせるような実践的な研究を目指し，具体的実践報告及びその検討を主とした研究を行ってきた。今年度は研究内容を昨年度からの継続研究である「書くこと」についてさらに深めていくとともに，小中の連携という２点を柱として掲げた。

昨年度は学習指導要領の改訂に伴う様々な変化に対応すべく，「書くこと」の効果的な指導方法に焦点を当てて研究を進めた。４段階に分けられた『「書くこと」の指導ステップ』を考案し，ステップ１と２について各校の実践報告をし，授業研究によって検証を重ねた。その成果として，教材に工夫を凝らすことができたことやお互いの実践報告から効果的な方法を得て，それぞれの実践につなげることができたということがあげられた。そして，今年度は昨年度の研究で得たことをさらに深めるべく，『「書くこと」の指導ステップ』におけるステップ３，４に研究を進め，この研究主題を設定した。

また，今回の学習指導要領改訂に伴い「聞くこと」「話すこと」という音声面の指導については小学校段階での「外国語活動」における英語学習を通して一定の素地が育成されることを踏まえ指導内容の改善を図ることが求められている。そのため，小学校における「外国語活動」の実践報告を受け，中学校の入門期にどのようにつなげていくことができるか，小学校から中学校へ系統的に、スムーズな移行ができるように小中の連携を図ることを目指してきた。

Ⅱ　英語を書く力の育成と発表に向けて

１　「書くこと」の指導ステップ（平成２２年度研究より）

（１）　ステップ１：英語の表記法に従って正しく英文を書き写すことができる

（２）　ステップ２：日本語とは違った英語の語順を意識し，正しく英文を書くことができる

（３）　ステップ３：Writing for information　　メモ書きのような内容が分かる英語

（４）　ステップ４：Writing for presentation　（杉田，2010）

発表原稿のように内容と形式に留意して行うライティング指導

２　今年度の研究内容

（１）ステップ３・４の指導について

ア　　ステップ３　「Writing for information」の活動例

・授業や電話の内容の概要を聞き取る。

・スピーチを聞きながらメモを取り，内容について自分の意見や感想をまとめる。

・ディベートやディスカッションなどにおけるポイントを記録する。

イ　ステップ4　Writing for presentation の活動例

・教科書の対話文を参考にしてスキットを書き，発表する。

・読んだものの要約を書き，発表を行う。

・読んだものに対する意見や感想を書き，スピーチを行う。

㊟「4技能統合の観点からみたライティング指導（杉田, 2011)」より一部抜粋

（2）東山梨外国語部会で考案した指導過程

1) Warming up (原稿につながる内容を工夫する)
2) モデル文の提示（生徒が書く文をある程度制限するか自由に書かせるのか活動の形態を示す)
3) 口頭練習 (Read and look up)
4) ブレインストーミング（キーワードから連想する単語などを書く: Writing for information)
5) 文章の構成（相手に伝えるということを意識して英文の並べ方を工夫)
6) 下書き（語と語のつながりや文の意味を考える)
7) 修正（ペアで英文の修正をし，さらに教師による修正を加える)
8) 原稿の完成（キーワードから連想する単語などを書く)
9) 音読練習と暗記 (Read and look up から相手に伝えることを意識して暗唱させる)
10) 班で発表（わかりやすく相手に伝える)
11) 相互評価（聞きながらメモをとる: Writing for information)
12) 全体での発表（班で発表をした時の反省を生かす)
13) 相互評価（聞きながらメモをとる: Writing for information)

Ⅲ　研究の具体的な進め方

（1）授業研究

8月31日　授業者　三井絵里教諭　（松里中学校)

1月25日　授業者　神宮寺剛教諭　（井尻小学校)

（2）検証

東山梨外国語部会で考案した指導過程の検証と，小学校と中学校の連携を図るために情報を共有する。

Ⅳ　成果と課題

「書くことの指導ステップ」が考案され，Writing for presentation までの一連の流れが作られた。目標に向かって見通しを持ち，わかりやすく教材を提示することや，書くことの活動を何回も繰り返し，継続して取り組むなどさらに工夫ができるはずである。

また，今後も系統的で継続的な指導をするために、小中の連携を図り、英語教育を深めていくことが必要である。

（　部長　秋山悦子　）